

17  
17  
聖徒伝 238

# キリストの 永遠の安息をこそ

エレミヤ書 17章 律法による祝福と呪い 安息日

## アウトライン

### 0. イントロダクション

### I. イスラエルの罪と裁き

17:1~18

### II. 安息日に関する御告げ

17:19~27

### III. まとめと適用

キリストの永遠の安息をこそ

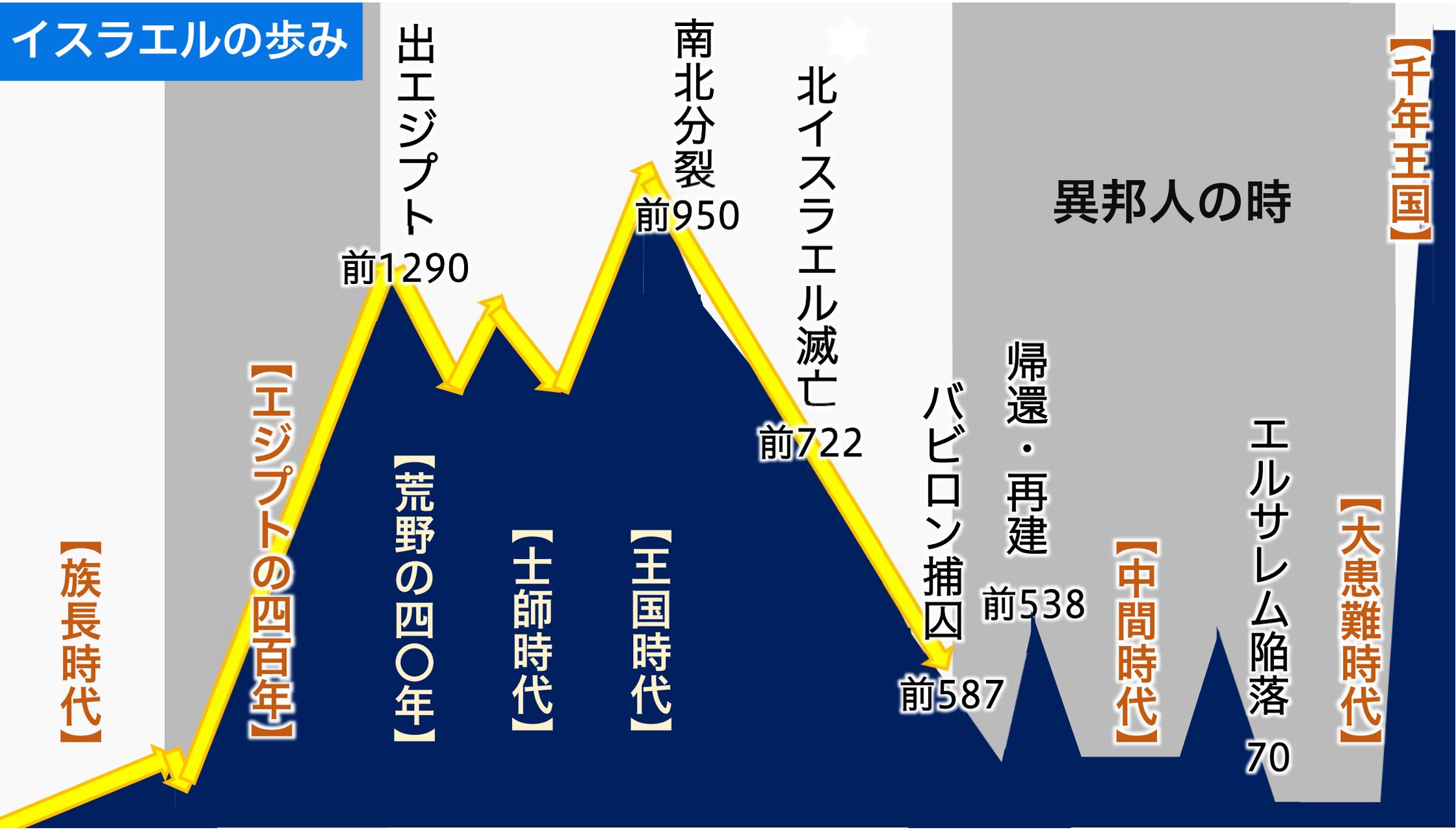


丘の上の木・高きところ？

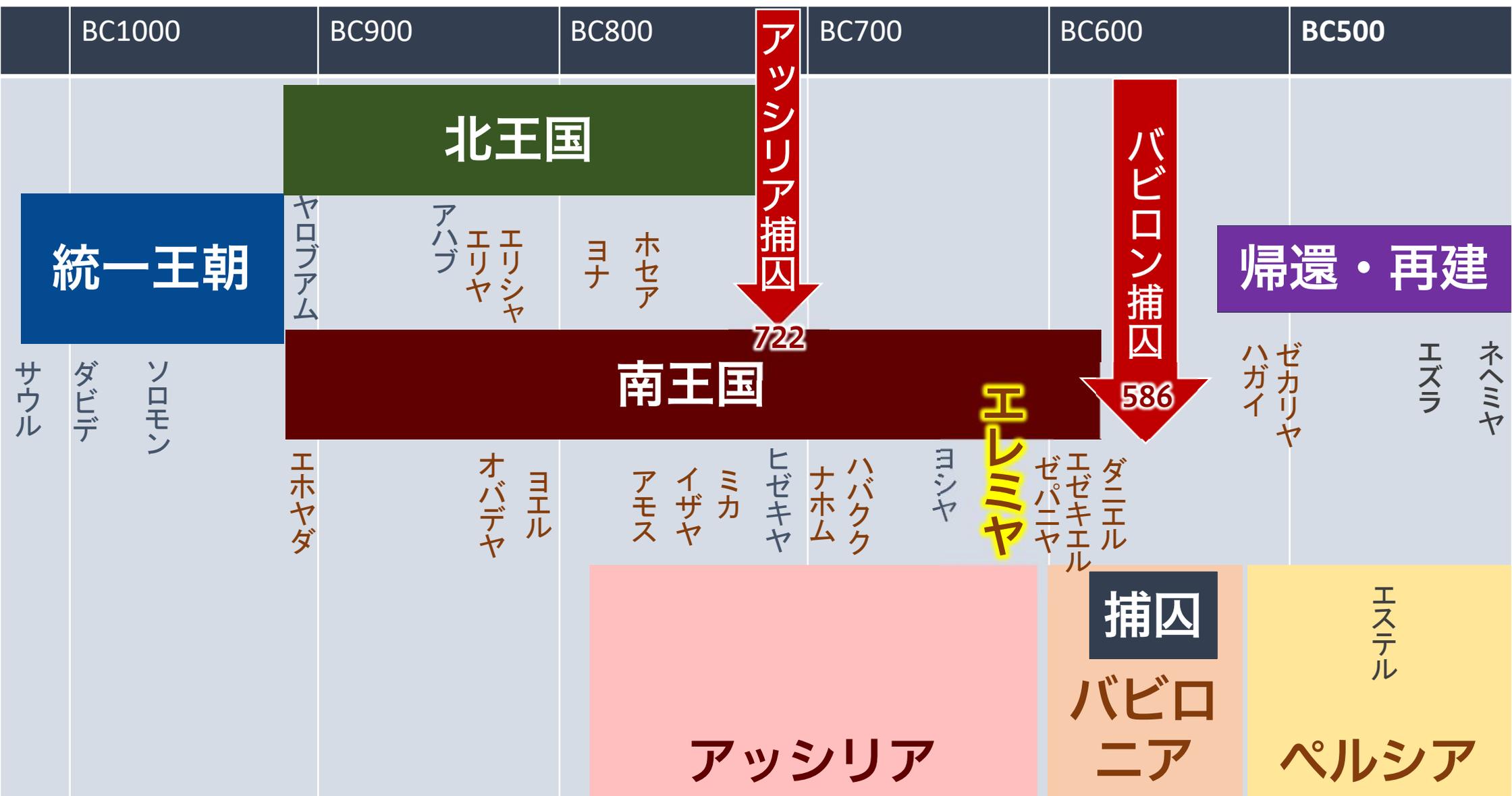


# 0. イントロダクション

# イスラエルの歩み



# イスラエル王国史



## エレミヤ書の構成

章	時代	おもな内容
1～12	ヨシヤ王の時代	エレミヤの召命 エルサレムの罪状と裁定
13～20	エホヤキム王の時代	捕囚の預言
21～38	混沌の時代① エホヤキム、エホヤ キン、ゼデキヤ (※記述年代は前後)	帰還の希望(23~29章) エルサレムの滅亡 慰め
39～44	捕囚後	
45～51	混沌の時代② エホヤキム、エホヤ キン、ゼデキヤ (※記述年代は前後)	エルサレムの滅亡 諸国への預言
52	まとめ	エレミヤの生涯

北王国  
イスラエル

アッシリア捕囚  
BC722年

南王国  
ユダ

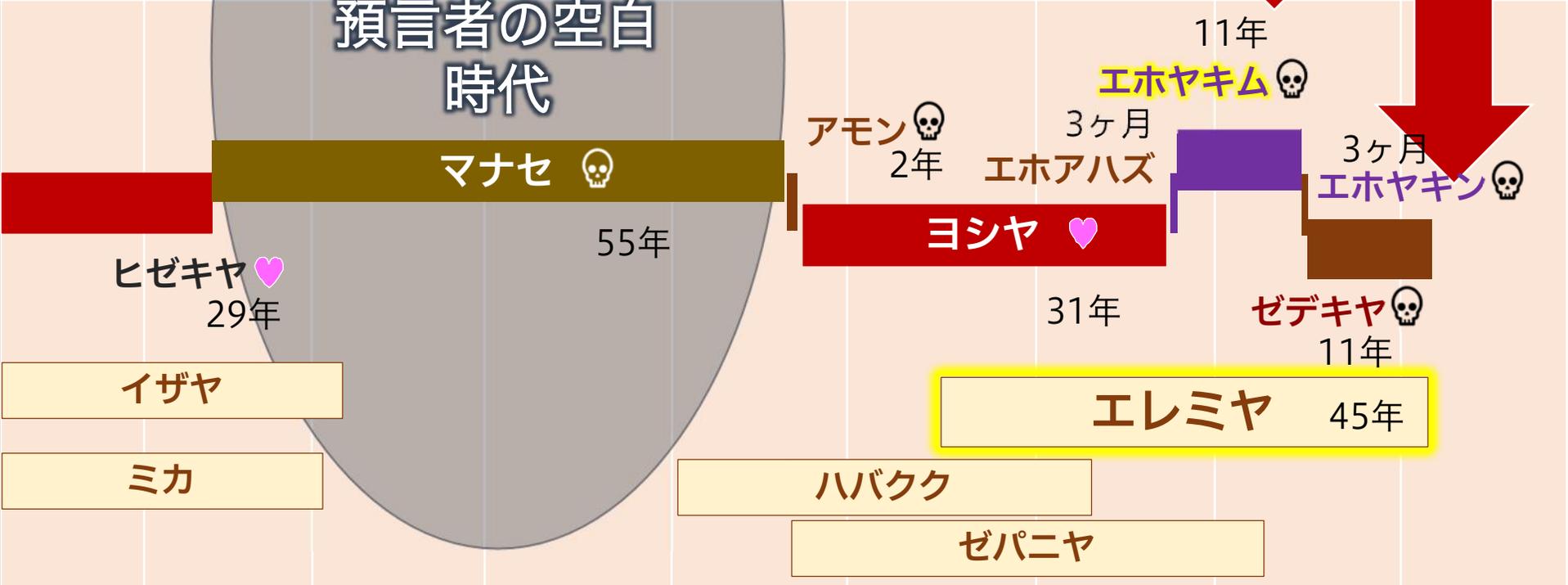
裁きの時は  
いよいよ間近!!

バビロニアの侵略

バビロン捕囚



預言者の空白時代



【預言者視点で見る預言書は、こんな感じ？ 実際は？】



# 【預言者たちの告げたこと】

イスラエルへの最後の裁き



預言の内容



南北時代



主の日



メシア的王国

南北時代

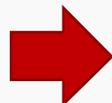


① 直近の  
苦難

メシア初臨



② 主の日  
大患難時代



③ 回復  
メシア再臨



# Ⅰ. イスラエルの罪と裁き

エレミヤ書17章1～18節

エルサレム近郊の丘

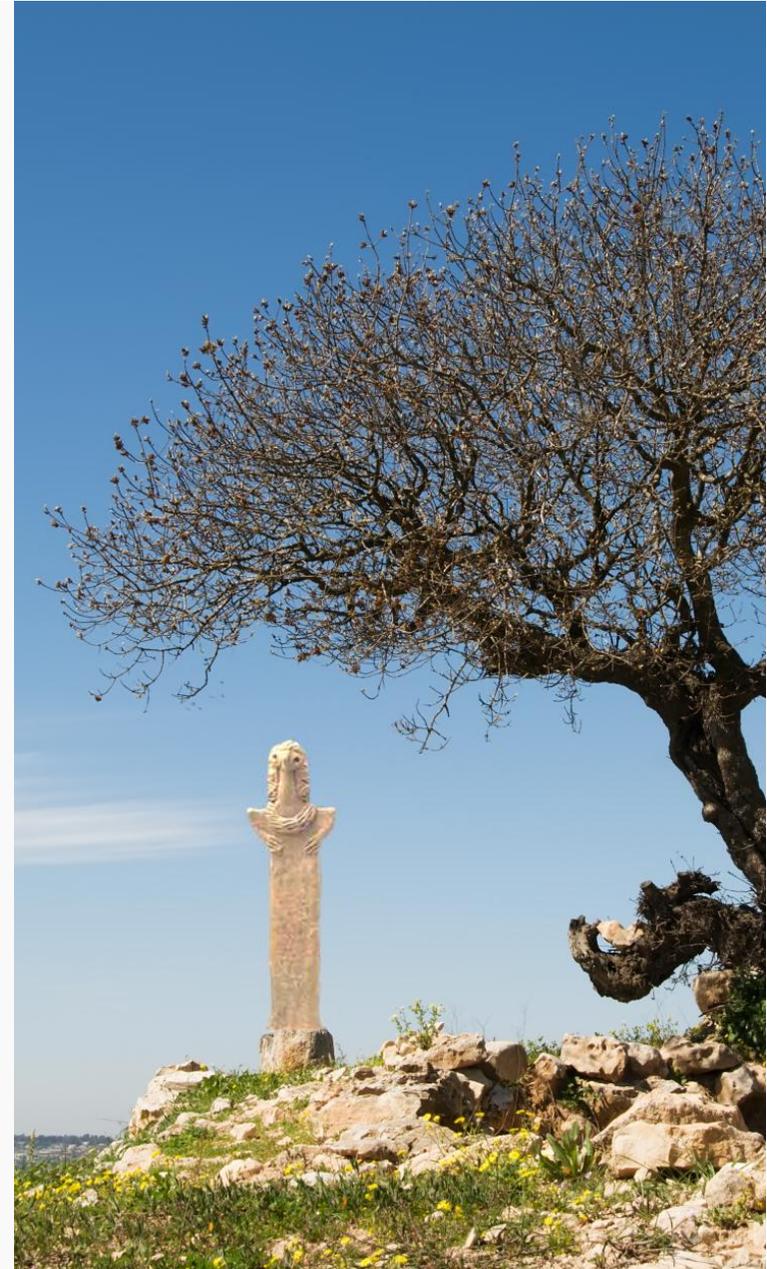
## 第一連 偶像礼拝の罪 エレミヤ17:1~2

「ユダの罪は、鉄の筆と金剛石\*の先端で記され、彼らの心の板\*と彼らの祭壇の角\*に刻まれている。彼らの子たちまでもが\*、その祭壇や、高い丘の青々と茂る木のそばにあるアシェラ像を覚えているほどだ。」

\*ダイヤモンド \*角は権威の象徴

\*本来、心の板に刻むべきは、御言葉(律法)  
「恵みとまことがあなたを捨てないようにせよ。それをあなたの首に結び、心の板に書き記せ。箴言3:3」

\*今の世代にも継がれている偶像礼拝



## 第一連 裁きの宣告 エレミヤ17:3

野にあるわたしの山\*よ。あなたの領土のいたるところで犯した罪ゆえに、わたしは、あなたの財宝、すべての宝物を、高き所\*とともに、戦利品として引き渡す。

\*主の山(エルサレム)が野(偶像礼拝の地)に

\*高台に築かれた祭壇。神殿以前の礼拝所。

➔偶像礼拝の場と化していった

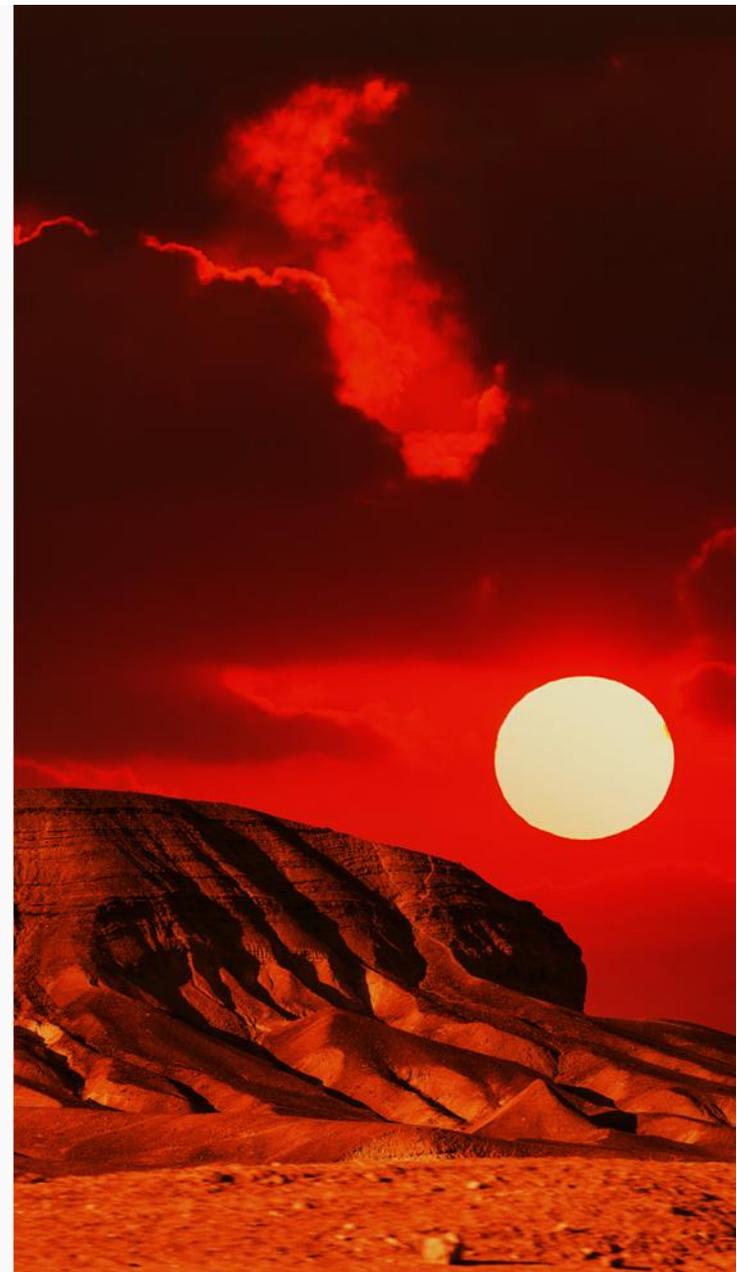


## 第一連

## 神の怒り エレミヤ17:4

あなたは、わたしが与えたゆずりの地を手放さなければならない。またわたしは、**あなたの知らない国\***で、あなたを敵に仕えさせる。あなたがたが、**わたしの怒り\***に火をつけたので、それはとこしえまでも燃える。」

「彼らは、神でないものでわたしのねたみを引き起こし、彼らの空しいもので**わたしの怒り**を燃えさせた。わたしも、**民でない者たち\***で彼らのねたみを引き起こし、**愚かな国民\***で彼らの怒りを燃えさせる。申32:21」



## 第二連 肉に頼む者 エレミヤ17:5～6

【主】はこう言われる。「人間に信頼する者はのろわれよ\*。肉なる者を自分の腕とし\*、心が【主】から離れている者は。

そのような者は荒れ地の灌木。幸せが訪れても出会うことはなく、焼けついた荒野、住む者のいない塩地\*に住む。

\*ここだけの独自の表現

\*「肉なる者を頼みとし(新共)」

\*裁かれたソドム、ゴモラ。死海周辺の地。



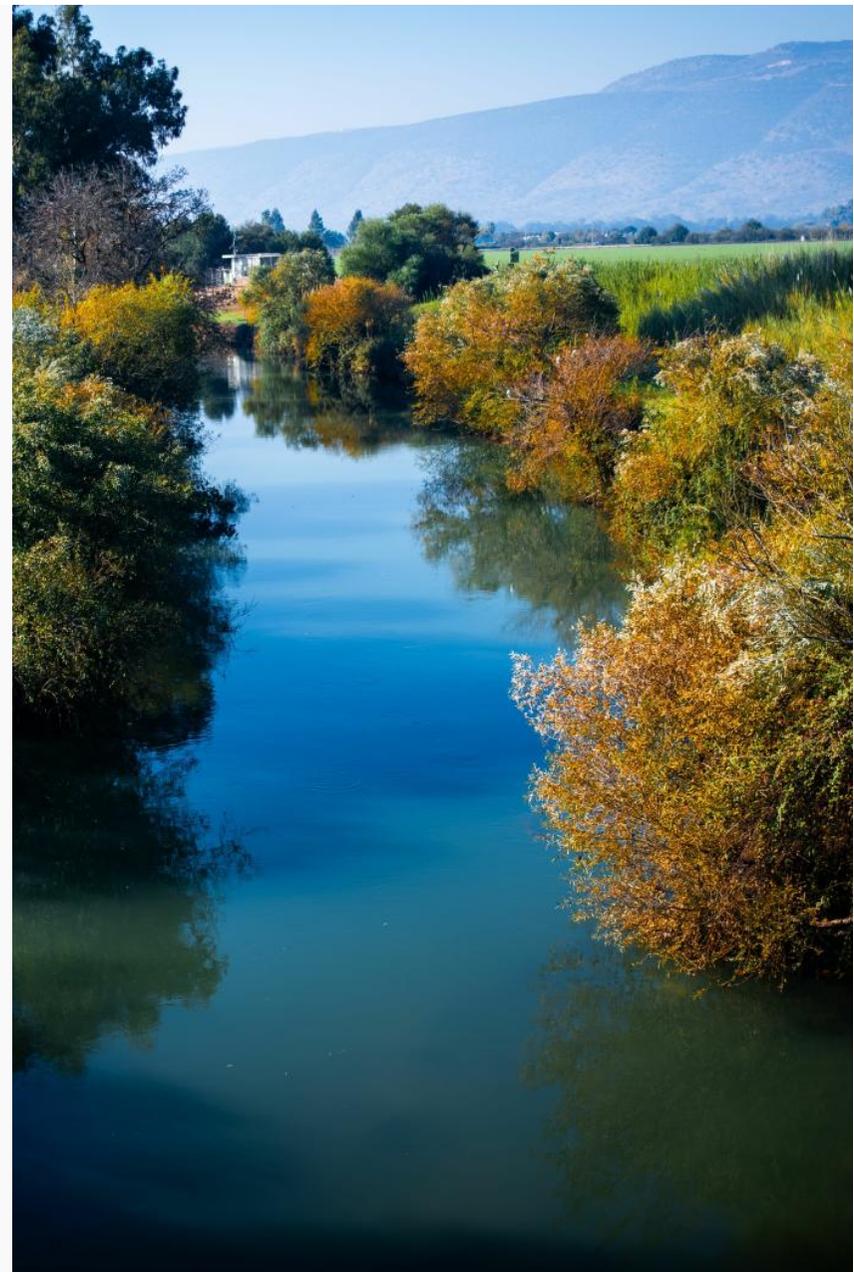
ただ主に信頼せよ!!

## 第二連 水のほとりの木 エレ17:7~8

【主】に信頼する者に祝福があるように。  
その人は【主】を頼みとする。

その人は、水のほとりに植えられた木。  
流れのほとりに根を伸ばし、暑さが来ても  
暑さを知らず、葉は茂って、日照りの年にも  
心配なく、実を結ぶことをやめない。

主に信頼する者には、  
永遠の祝福が約束されている



## 流れのほとりに植えられた木

### ■詩編1:1～3

幸いなことよ 悪しき者のはかりごとには歩まず  
罪人の道に立たず 嘲る者の座に着かない人。

主のおしえを喜びとし

昼も夜も そのおしえを口ずさむ人。

その人は 流れのほとりに植えられた木。

時が来ると実を結び その葉は枯れず

そのなすことはすべて栄える。

### 第三連 心を探る主 エレミヤ17:9~10

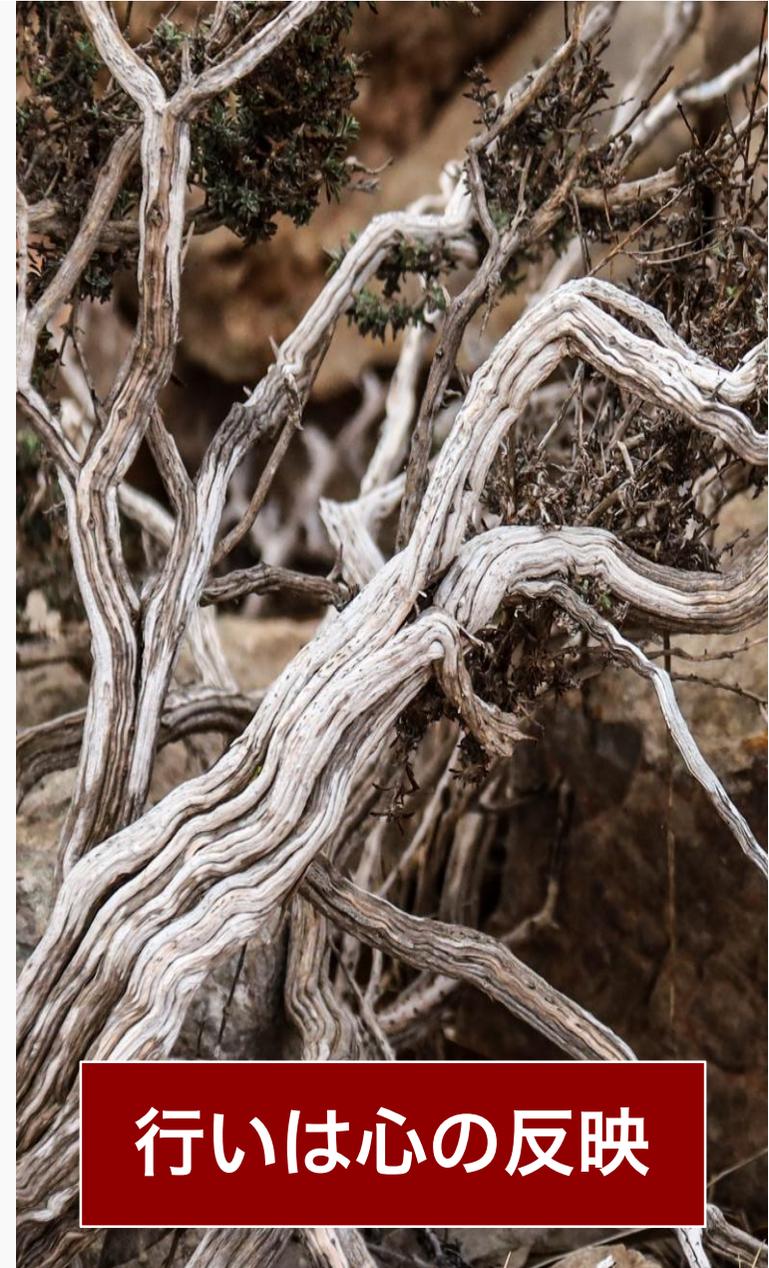
人の心は何よりもねじ曲がっている。それは癒やしがたい。だが、それを知り尽くすことができるだろうか。

わたし、【主】が心を探り、心の奥を試し、それぞれその生き方により、行いの実にしたがって報いる。」

■主への信頼の表明として求められるのは、私たち一人一人の生き方、行い。

「【主】は心を見る。 | サム16:7」

「悔い改めにふさわしい実を結べ。 マタ3:8」



行いは心の反映

## 第四連

## 聖所 エレミヤ17:11~12

しゃこ\*が自分で産まなかった卵を抱くように、公正によらないで富を得る者がいる。彼の生涯の半ばで、富が彼を置き去りにし、その末は愚か者に終わる。

私たちの聖所がある場所\*は、初めから高く上げられた栄光の王座だ。

\*ウズラとキジの間くらいの鳥

\*エルサレム

■ 都として神が選ばれていたエルサレム。  
建設直後に神殿に神の栄光が臨在した。



## 第四連

### 地に名を記す エレミヤ17:13

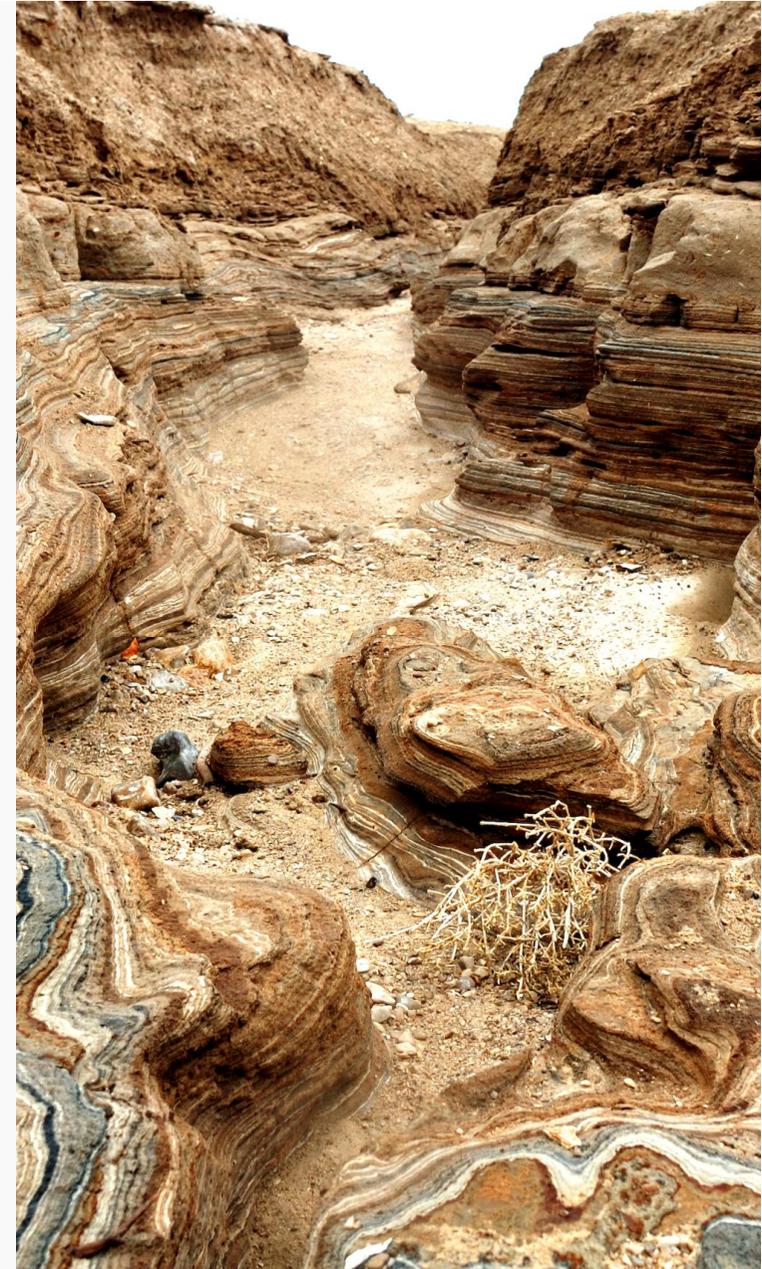
「イスラエルの望みである【主】よ。あなたを捨てる者は、みな恥を見ます\*。」

「わたしから離れ去る者は、地にその名が記される\*。いのちの水の泉である【主】を捨てたからだ。」

\*主を捨てる者は、神に見捨てられる。

\*ここだけの表現…滅びを指すか?!

「あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。ルカ 10:20」



## 第五連

## 主への訴え エレミヤ17:14

「私を癒やしてください、【主】よ。そうすれば、私は癒やされます\*。私をお救いください。そうすれば、私は救われます\*。あなたこそ、私の賛美\*だからです。」

\*主に全権を委ね、神の主権に訴える

「ただ、おことばを下さい。そうすれば私のしもべは癒やされます。マタ8:8」

\*ここだけの表現

“テヒラー”…讃美、栄誉、栄光



讃美とは栄光の  
主を讃えること

## 第五連 背きと従順 エレミヤ17:15~16

ご覧ください。彼らは私に言っています。

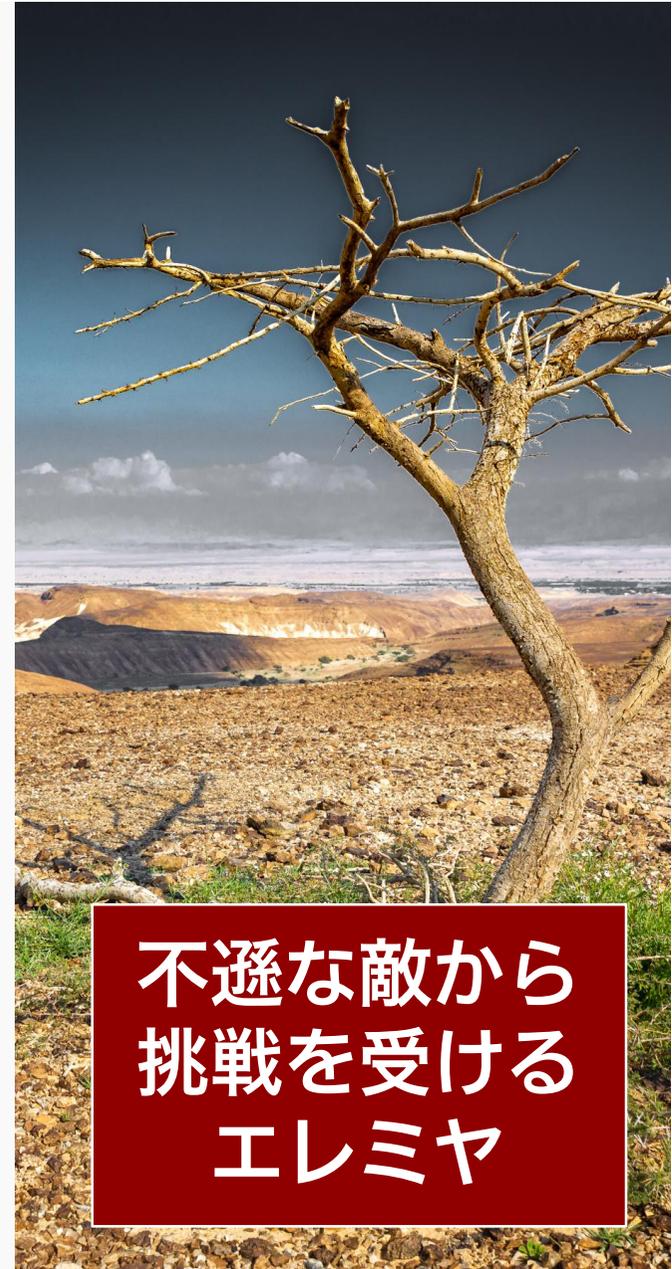
『【主】のことばはどこへ行ったのか\*。さあ、それを来させよ。』

しかし私は、あなたに従う牧者になることを避けたことはありません。癒やされない日\*を望んだこともありません。あなたは、私の唇から出るものが御前にあることをよくご存じです。

\*ここだけの表現。律法に背く不信仰の極み。

\*災の日(口語)、痛手の日(新共)

■ エレミヤは忠実に神のことばを告げてきた。  
イスラエルの回心と回復を切実に願って。



不遜な敵から  
挑戦を受ける  
エレミヤ

## 第五連 避け所なる主 エレミヤ17:17~18

私を恐れさせないでください。あなたは、**わざわいの日\***の、私の身の避け所です。

私を迫害する者たちが恥を見て、私が恥を見ることのないようにしてください。彼らがうろたえ、私がうろたえることのないようにしてください。彼らの上に**わざわいの日\***を来たらせ、破れを倍にして、彼らを打ち破ってください」

\* 神の裁きの日 ①直近のバビロン捕囚  
②世の終わりの大艱難

■ 迫害者への神の裁きを願うエレミヤ。



エレミヤは  
裁き主に  
救いを求めた



II. 安息日に関する御告げ エレミヤ書17章21～27節

神殿の丘・黄金門

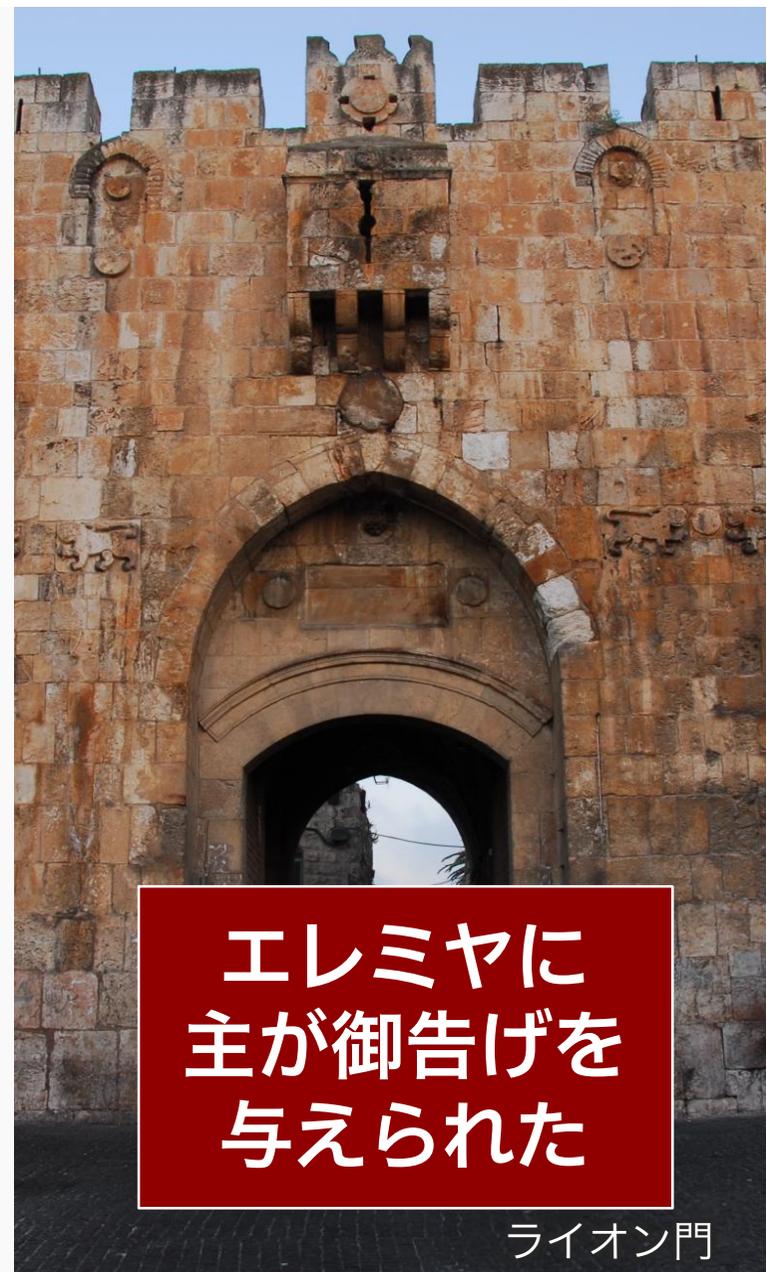
## 第六連 安息日 エレミヤ17:19~20

【主】は私にこう言われる。「行って、ユダの王たちが出入りする、この民の子らの門\*と、エルサレムのすべての門に立ち、彼らに言え。『これらの門の内に入るユダの王たち、ユダ全体、エルサレムの全住民よ、【主】のことばを聞け。

\*行政・司法・立法機関 →裁きの場でも!!

■エレミヤに託された主の御告げ(27節まで)

→16節で、エレミヤは切実に主に求め、主が応えてくださった。



エレミヤに  
主が御告げを  
与えられた

ライオン門

## 第六連 安息日 エレミヤ17:21～22

【主】はこう言われる。あなたがた自身、気をつけて、安息日に荷物を運ぶな。また、それをエルサレムの門の内に持ち込むな。

また、安息日に荷物を家から出すな。いかなる仕事もするな。安息日を聖なるものとせよ。わたしがあなたがたの先祖に命じたとおりだ。

■ 安息日は、聖別されるべき日。

※ 聖別 → 神のものとして区別する

■ 信仰により、私たちも神に聖別されている



## 安息日の意味 ①天地創造後の主の安息

### ■十戒の安息日規定 出エジプト記20:10~11

七日目は、あなたの神、【主】の安息である。あなたはいかなる仕事もしてはならない。あなたも、あなたの息子や娘も、それにあなたの男奴隷や女奴隷、家畜、またあなたの町囲みの中にいる寄留者も。

それは【主】が六日間で、天と地と海、またそれらの中のすべてのものを造り、**七日目に休んだ**からである。それゆえ、【主】は安息日を祝福し、これを聖なるものとした。

**理由① 七日目の主の安息を記念して**

## 安息日の意味 ②奴隷からの解放

### ■十戒の再掲 申命記5:15

あなたは自分が**エジプトの地で奴隷であった**こと、そして、あなたの神、【主】が力強い御手と伸ばされた御腕をもって、あなたを**そこから導き出した**ことを覚えていなければならない。それゆえ、あなたの神、【主】は安息日を守るよう、あなたに命じたのである。

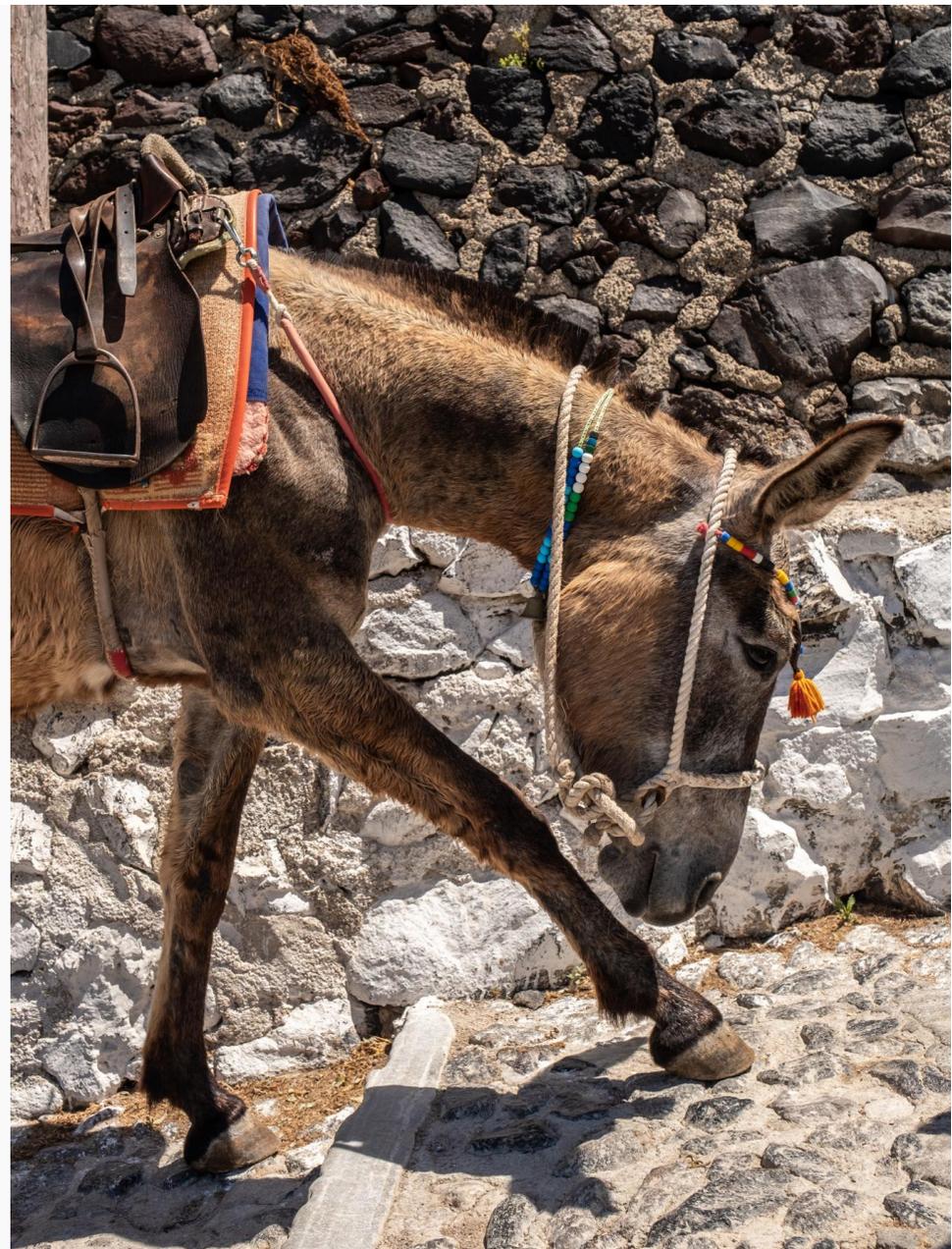
**理由② エジプトの奴隷からの解放を記念して**

## 第六連 うなじを固く エレ17:23

しかし、彼らは聞かず、耳を傾けず、**うなじを固くする者\***となって聞こうとせず、戒めを受けなかった。

■ シナイ山の麓の金の子牛事件から最後のゼデキヤ王まで…。

「彼はまた、彼に神にかけて誓わせたネブカドネツアル王に反逆した。彼は**うなじを固くし\***、心を閉ざして、イスラエルの神、【主】に立ち返らなかった。 Ⅱ歴代 36:13」

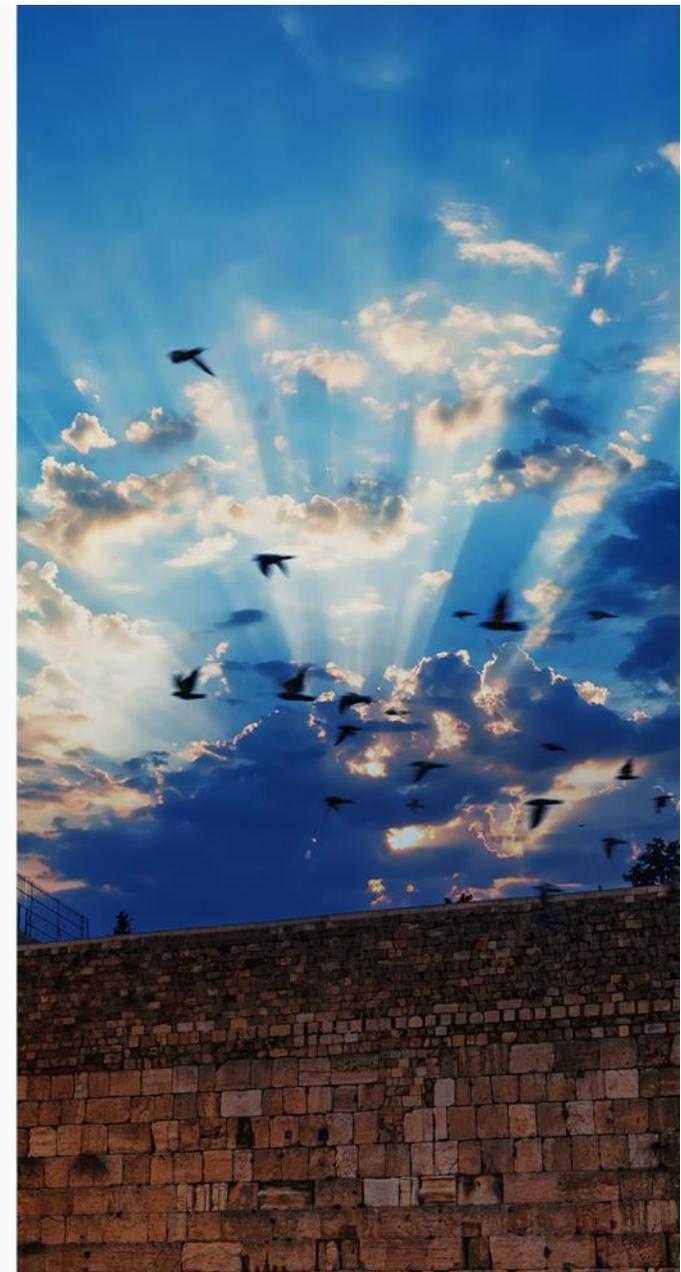


## 第六連

## 安息日の祝福 エレ17:24～25

もし、あなたがたが、本当にわたしに聞き従い——【主】のことば——安息日にこの都の門の内に荷物を持ち込まず、安息日を聖なるものとし、この日にいかなる仕事もしないなら、ダビデの王座に就く王たちや、車や馬に乗る首長たち、すなわち王たちとその首長たち、ユダの人、エルサレムの住民は、この都の門の内に入り、この都はとこしえに人の住む所となる。

- イスラエルが安息日を聖別するなら、イスラエルも神によって聖別される。



## メシアの宮きよめ

### ■ マタイ21:12~13

それから、イエスは宮に入って、その中で売り買いしている者たちをみな追い出し、両替人の台や、鳩を売る者たちの腰掛けを倒された。そして彼らに言われた。

「『わたしの家は祈りの家と呼ばれる』と書いてある。それなのに、おまえたちはそれを『強盗の巣』にしている」

### ■ メシアによる宮きよめの恵みの側面

➡ 主の戒めを、この時受け入れていたならば…

## 第六連 宮に上る全民 エレミヤ17:26

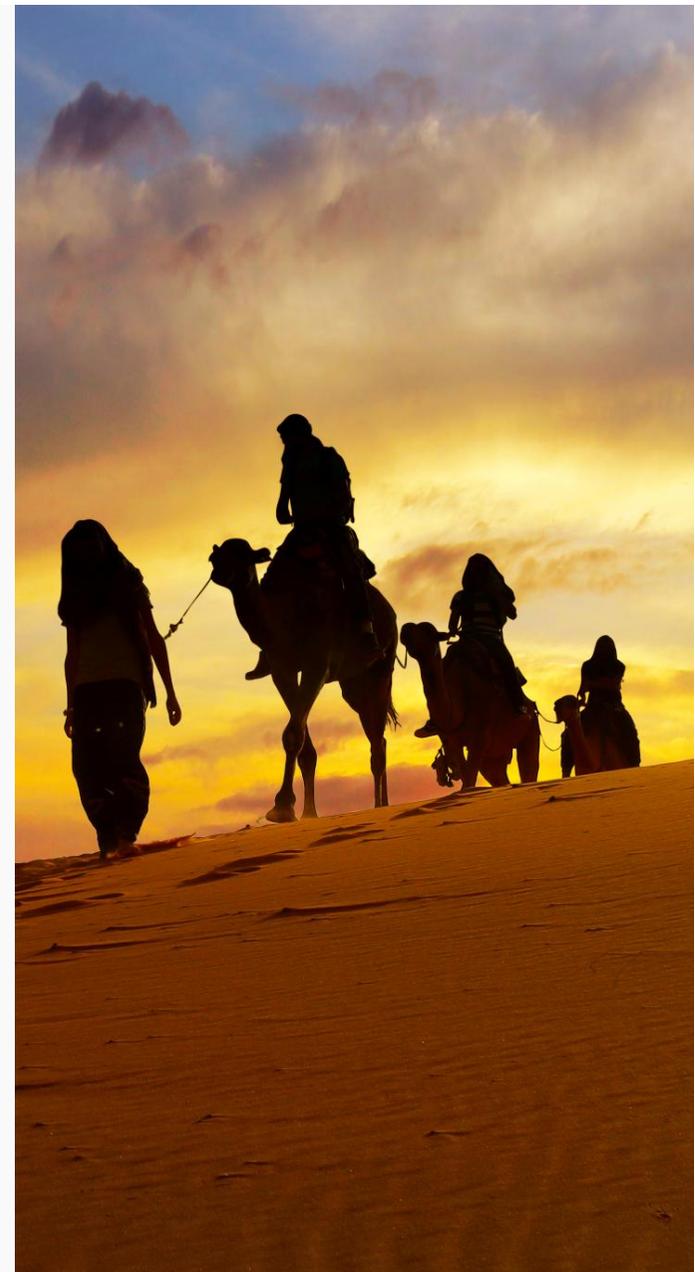
ユダの町々やエルサレムの周辺から、ベニヤミンの地やシェフェラから、また山地やネゲブ\*から、全焼のささげ物、いけにえ、穀物のささげ物、乳香を携えて来る者、また感謝のいけにえを携えて来る者が、【主】の宮に来る。

\*山地(北のエフライム)、南のネゲブ(荒野)

■イスラエルの全地から民が礼拝に上ってくる。

➔エレミヤの時代には、北はすでに離散

➔この実現は、艱難後の千年王国



## 第六連 神の怒りと呪い エレミヤ17:27

しかし、もし、わたしの言うことを聞き入れず、安息日を聖なるものとせず、安息日に荷物を運んでエルサレムの門の内に入るなら、わたしはその門に火をつけ、火はエルサレムの宮殿をなめ尽くし、消えることがない\*』」

### \*究極的な主の裁き

「申32:22 火はわたしの怒りで燃え上がり、よみの底まで燃えていく。地とその産物を焼き尽くし、山々の基まで焼き払う。」





### Ⅲ. まとめと適用

キリストの永遠の安息をこそ

エルサレム近郊の丘の上の道

## エレミヤ書17章 独自の詩的表現のオンパレード

「ユダの罪は、鉄の筆と金剛石の先端で記され、1節」

「人間に信頼する者はのろわれよ。肉なる者を自分の腕とし、心が主から離れている者は。5節」

「わたしから離れ去る者は、地にその名が記される。13節」

「あなたこそ、私の賛美だからです。14節」

「【主】のことばはどこへ行ったのか\*。

さあ、それを来させよ。」

主の皮肉は  
超一流

これ以上ない、多彩な表現による主の御告げ!!

## エレミヤが主に求めたこと

- 南王国で重ねられ、受け継がれ、深刻さを増す偶像礼拝。
- 神の厳しい裁きは避けがたく、もう間近に迫っている。
- 神の警告を告げるエレミヤは、激しい迫害のただ中で叫んだ。  
私を癒やし、救い、  
嘲りの中で、何より、語るべき言葉を与えてくださいと。

**主は、エレミヤの願いに答えられた。**

## 祝福と呪い

■主がエレミヤに告げたのは、安息日の祝福と呪い。

■主に従えば祝福があり、背けば呪いがある。➡祝福と呪い

■「恥とされる」とは、主に見捨てられること。  
主を見捨てた者は、主に見捨てられる。

主を拒み通した者は、永遠に主に拒まれる。➡永遠の滅び。

**恵みにある内に、究極の神の恵み、救いを受け取ろう!!**

## すでに与えられている 恵みの約束

■ 主がエレミヤに告げた、安息日の祝福と呪いは、  
モーセの律法を通し、イスラエルに**すでに与えられていた**こと。

■ 各々の時代に必要な御言葉と約束は、先だって与えられている。  
今の教会時代には、  
キリストの御言葉と、御霊が導かれた使徒たちの教えがある。

■ 十字架の贖いと復活。

悔い改めて福音を信じ、永遠の命に至る道が指し示されている。

## 永遠の裁き 永遠の滅び

「あなたがたが、わたしの怒りに火をつけたので、それはとこしえまでも燃える。4節」

「わたしはその門に火をつけ、火はエルサレムの宮殿をなめ尽くし、消えることがない』21節」

■ やがてイスラエルにふりかかる災いは、世界を飲み込む。  
主による裁きと滅びを、人々に伝えないではいけない。

**罪と滅びを告げずして、福音を伝えることはできない!!**

## 永遠の安息のうちに

- エレミヤは、律法を通して与えられる安息日の祝福を告げた。
- 今の時代には、キリストの愛の律法を通して、永遠の安息が!!
- 人の子は安息日の主であって、**主イエスこそが永遠の安息。**

「私たちは真実な方のうちに、その御子イエス・キリストのうちにいるのです。この方こそ、まことの神、永遠のいのちです。」

ヨハネ手紙第一5:20

## 再臨の主イエスによる 裁きと安息

### ■テサロニケ人への手紙 第二1:6~7

神にとって正しいこととは、あなたがたを苦しめる者には、報いとして苦しみを与え、

苦しめられているあなたがたには、私たちとともに、報いとして**安息**を与えることです。このことは、主イエスが、燃える炎の中に、力ある御使いたちとともに天から現れるときに起こります。

**主イエスの永遠の安息にこそ、あずかろう!!**

# 主の御言葉によりすがり、神の永遠の安息へ!!

■ヘブル人への手紙4:10~12

**神の安息**に入る人は、神がご自分のわざを休まれたように、自分のわざを休むのです。

ですから、だれも、あの不従順の悪い例に倣って落伍しないように、**この安息**に入るように努めようではありませんか。

神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄を分けるまでに刺し貫き、心の思いやはかりごとを見分けることができます。

## ★ キリストの永遠の安息をこそ ★

■ 主はエレミヤの叫びに応え、安息日の祝福と呪いを告げられた。  
主イエスは、永遠の安息と、永遠の滅びをもたらされる。

■ 永遠にキリストのうちにある。これが、永遠の安息だ。

■ 苦難の中でも、御霊の助けによって証しされる安息がある。  
騒ぎ立つ心を鎮め、喜びと感謝をもたらしてくださる、  
このキリストの安息を、人々に証ししていこう。

**福音を告げ、キリストの安息を証ししていこう!!**

てん とう わたし つみ  
「天のお父さま。私たちの罪をゆるしてください

わたし かみ こ しゅ  
私たちは、神のみ子、主イエス・キリストが、

わたし つみ あがな じゅうじか し  
①私たちの罪を贖うために十字架で死なれ、

はか ほうむ  
②墓に葬られ、

みっかめ ふっかつ しん  
③三日目に復活されたこと、を信じます。

わたし えいえん あんそく あた  
私たちは、キリストのうちにあり、永遠の安息が与えられています。

ひび しれん くなん なか あんそく あじ  
日々の試練と苦難の中でも、この安息を味わわせてください。

しゅ あんそく へいあん あか もの  
主イエスの安息のうちにあり、平安を証しする者としてください。

わたし みたま み ふくいん つ つか  
私たちを御霊で満たし、福音を告げるために遣わしてください。

しゅ な いの  
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」